専門研修プログラム名	筑波大学附属病院連携施設　精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	筑波大学附属病院	
プログラム統括責任者	新井　哲明	

専門研修プログラムの概要	筑波大学附属病院精神神経科は、「連携を大切に、一歩先の精神医療・医学を」というミッションのもと、「患者さんを一人の人間としてトータルに理解でき、脳とこころの双方に精通し、スムーズな連携がとれる精神科医を養成する」ことをビジョンとしている。大学病院および茨城県内の精神科病院・クリニックを中心とした連携施設で研修することにより、総合病院精神医療、地域精神医療、精神科救急、児童思春期精神医療、認知症医療、アルコール・薬物依存症等の幅広い領域について経験し、精神医療全般の基礎を身につけるとともに臨床研究も行うことができる体制を整えている。専攻医は、これらの施設をローテートしながら研鑽を積み、精神科医師としての実力をつけるとともに専門医の資格を得ることができる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は筑波大学附属病院連携病院において、精神医療の基本を学ぶ。「指示された業務をしっかり遂行できる」ことが目標である。2年目・3年目は連携病院において、精神科救急、児童思春期、認知症、地域医療等を経験する。2年目の目標は、担当業務を自らの判断に基づいて遂行できるようになることであり、3年目は、後輩のアドバイザー的役割も果たすことを目標とする。フォローアップ体制として、毎週火曜日の昼にオンラインによる専攻医ミーティングに参加することにより、自身の課題や疑問について指導医に質問したり、専攻医同士で情報交換したりすることができるシステムを確立している。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	ビジョンにあるように、「患者さんを一人の人間としてトータルに理解でき、脳とこころの双方に精通し、スムーズな連携をとる」態度を身につけ、それを実践するために必要な知識・技能を習得する。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	大学病院においては、毎週の教授回診の準備を通じて担当症例について深く学ぶとともに、他の症例についての発表と議論を聞くことで精神医療について幅広く学習する。さらに、月に1回の症例検討会を通じて、精神疾患についての理解を深める。研修中に生じる疑問については、毎週の専攻医ミーティングを通じて解決する。
	学問的姿勢	1)自己研修とその態度、2)精神医療の基礎となる制度、3)チーム医療、4)情報開示に耐える医療について生涯にわたって学習し、自己研鑽に努める姿勢を涵養する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	1) 患者および家族のニーズを把握し、患者の人権に配慮した適切なインフォームドコンセントが行える。2) 多職種で構成されるチーム医療を実践し、チームの一員としてあるいはチームリーダーとして行動できる。3) 他科と連携を図り、他の医療従事者との適切な関係を構築できる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目: 筑波大学附属病院・連携病院で、基本を学ぶ。2年目: 連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して精神療法・薬物療法を中心に実践する。3年目: 自身の関心のある領域での内容が充実している連携病院で研修を行う。
	研修施設群と研修プログラム	総合病院、精神科病院、精神科クリニックで施設群を構成している。これにより、「総合病院精神医療」「地域精神医療」「精神科救急」「児童思春期精神医療」「認知症医療」を経験できる。

	地域医療について	研修施設は、茨城県全域にわたって配置されている。茨城県は医師不足地域であることから、通常の研修を通じて地域医療を学ぶことができる環境となっている。
専門研修の評価	精神医学的知識およびスキルについては、各研修施設の指導医が当該施設での研修終了時に評価を行う。また、共感性、コミュニケーションの円滑さ、誠実さ、協調性といった態度に関しては、医師のみならず看護師から事務職員までを含めた多職種による評価を行う。	
修了判定	研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	筑波大学附属病院において、各診療科における専門研修プログラムのサポートを行う。
	専攻医の就業環境	専攻医の待遇などを決定する。
	専門研修プログラムの改善	専攻医との面談を通してプログラムが改善できる余地がある場合、各プログラムに改善を提案する。
	専攻医の採用と修了	専攻医の応募をとりまとめ、各診療科と連携する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	研修の休止や中断の場合、各診療科と情報共有を行う。プログラム移動を希望するような場合は、診療科間での相談を仲介する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	必要に応じてサイトビジットを行う。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	新井哲明（筑波大・教授）　太刀川弘和（筑波大・教授）　根本清貴（筑波大・准教授）　松﨑朝樹（筑波大・　講師）　白鳥裕貴（筑波大・講師）　袖山紀子（筑波大・助教）　田村昌士（筑波大・講師）　高橋卓己（筑波大病院助教）関根彩（筑波大病院助教）渡部衣美（筑波大病院助教）	
Subspecialty領域との連続性	専門医を取得後、一般病院連携精神医学専門医、日本認知症学会認定専門医、日本老年精神医学会認定専門医を取得できる環境が整備されている。	